

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は2019年度を起点に、創立100周年を迎える2023年度を最終年度とする5ヵ年中期経営計画「令和.Pro Prosperity2023」をスタートさせ、成長分野であるパワーエレクトロニクス事業、パワー半導体事業へのリソース傾注や海外事業拡大等の成長戦略を推進しています。

当第1四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復基調が継続しました。とりわけ、製造業の設備投資の持ち直しにより、工作機械関連の需要が好調に推移したほか、自動車の電動化や再生可能エネルギーのニーズの高まりを受け、半導体の需要が大幅に拡大しました。

このような環境のもと、当第1四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、「パワーエレクトロニクス エネルギー」「パワーエレクトロニクス インダストリー」「半導体」を中心とした需要の増加により、前年同期に比べ211億円増加の1,900億円となりました。

損益面では、売上高の増加により、営業損益は前年同期に比べ29億円増加の53億円、経常損益は前年同期に比べ33億円増加の59億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ36億円増加の50億円となりました。

当第1四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

(単位：億円)

	2021年3月期 第1四半期連結累計期間	2022年3月期 第1四半期連結累計期間	増 減
売上高	1,688	1,900	211
営業損益	24	53	29
経常損益	26	59	33
親会社株主に帰属する 四半期純損益	14	50	36

部門別の状況

《パワーエレクトロニクス エネルギー》

売上高：474億円（前年同期比 24%増加） 営業損益：11億円（前年同期比 1億円減少）

全ての分野において需要が拡大し、売上高は前年同期を上回りました。また、営業損益は器具分野で増加したものの、その他の分野における案件差等により、前年同期を下回りました。

- ・エネルギーマネジメント分野は、電力流通及び産業向け変電機器の大口案件等により、売上高は前年同期を上回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を下回りました。
- ・施設・電源システム分野は、データセンター及び半導体向けの大口案件等により、売上高は前年同期を上回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を下回りました。
- ・器具分野は、工作機械をはじめとする国内外の機械セットメーカーの需要が拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《パワエレシステム インダストリー》

売上高：626億円（前年同期比 8%増加） 営業損益：2億円（前年同期比 16億円増加）

I Tソリューション分野の売上高が減少したものの、オートメーション分野を中心に需要が拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・オートメーション分野は、低圧インバータ及びF Aコンポーネントを中心に国内外で需要が拡大し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・社会ソリューション分野は、鉄道車両用電機品及び放射線機器の需要が増加し、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
- ・設備工事分野は、電気設備工事の需要が増加し、売上高は前年同期を上回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を下回りました。
- ・I Tソリューション分野は、前年同期の公共分野の大目案件影響等により、売上高は前年同期を下回りましたが、案件差等により、営業損益は前年同期を上回りました。

(注) 2021年3月期第3四半期連結会計期間より、「船舶用排ガス浄化システム」を「オートメーション分野」から「社会ソリューション分野」に移管しており、前年同期の数値を移管後の分野に組み替えたうえで算出しております。

《半導体》

売上高：445億円（前年同期比 27%増加） 営業損益：56億円（前年同期比 28億円増加）

- ・半導体分野は、パワー半導体生産能力増強及び研究開発に係る費用が増加したものの、電気自動車（x E V）向け及び産業分野向けのパワー半導体の需要拡大により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《発電プラント》

売上高：120億円（前年同期比 24%減少） 営業損益：△7億円（前年同期比 16億円減少）

- ・発電プラント分野は、前年同期の再生可能エネルギーの大目案件影響により、売上高は前年同期を下回りました。また、売上高の減少及び案件差等により、営業損益も前年同期を下回りました。

《食品流通》

売上高：221億円（前年同期比 16%増加） 営業損益：2億円（前年同期比 4億円増加）

店舗流通分野の需要拡大により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

- ・自販機分野は、固定費削減等を推進したものの、国内飲料メーカーの設備投資計画の延伸等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
- ・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器等の需要拡大により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

《その他》

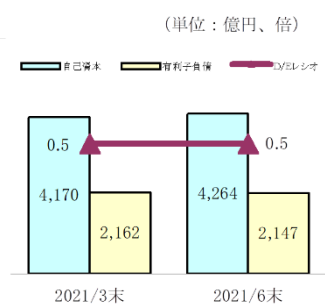
売上高：123億円（前年同期比 1%増加） 営業損益：5億円（前年同期比 2億円増加）

(注) 当第1四半期連結会計期間より、従来「電子デバイス」としていた報告セグメントの名称を「半導体」に変更しております。

(2) 財政状態に関する説明

	2021/3 末	構成比 (%)	2021/6 末	構成比 (%)	増減
総資産	10,520	100.0	10,190	100.0	△329
有利子負債残高	2,162	20.6	2,147	21.1	△15
自己資本	4,170	39.6	4,264	41.8	+94
D/E レシオ	0.5		0.5		0.0

*自己資本＝純資産合計－非支配株主持分
*D/E レシオ＝有利子負債残高/自己資本



当第1四半期末の総資産は10,190億円となり、前期末に比べ329億円減少しました。流動資産は、現金及び預金が増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産、たな卸資産の減少などを主因として、397億円減少しました。固定資産は、その他有価証券の時価評価差額相当分の増加などにより、68億円増加しました。

有利子負債残高は、当第1四半期末では2,147億円となり、前期末に比べ15億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第1四半期末では1,294億円となり、前期末に比べ115億円の減少となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加を主因として増加し、当第1四半期末では4,711億円となり、前期末に比べ98億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ94億円増加し、4,264億円となりました。D/E レシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.5倍となりました。なお、ネットD/E レシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.3倍となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第1四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、2021年4月27日の決算発表時に公表した2022年3月期通期の連結業績予想は修正しておりません。

第2四半期以降の為替レートは、102円/US\$、123円/EURO、15.5円/RMBを前提としています。

(第2四半期連結累計期間)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増 減
売上高	4,100	4,100	0
営業損益	115	115	0
経常損益	110	110	0
親会社株主に帰属する 四半期純損益	80	80	0

(通期)

(単位：億円)

	前回発表	今回発表	増 減
売上高	9,000	9,000	0
営業損益	600	600	0
経常損益	610	610	0
親会社株主に帰属する 当期純損益	420	420	0

(参考：通期 部門別)

(単位：億円)

	売上高			営業損益		
	前回発表	今回発表	増減	前回発表	今回発表	増減
パワーエリシステム エネルギー	2,170	2,170	0	152	152	0
パワーエリシステム インダストリー	3,290	3,290	0	222	222	0
半導体	1,740	1,740	0	216	216	0
発電プラント	840	840	0	33	33	0
食品流通	875	875	0	27	27	0
その他	500	500	0	18	18	0
消去又は全社	△415	△415	0	△68	△68	0
合計	9,000	9,000	0	600	600	0